

## 【2025年度 学生交流委員会 事業計画・自己評価・事業報告】

○目的 年間を通し各委員会校からの提案を協議し、大小問わず、魅力的、そして学生が地元地域への理解を深め、魅力を感じることができるプログラムを予算範囲内で可能な限り実施し、学生交流を活性化させることを目的とする。

○委員校 (全：25校) 委員長校：神戸常盤大学、副委員長校：神戸学院大学  
委員校：芦屋大学、大手前大学、大手前短期大学、関西国際大学、関西学院大学、関西学院短期大学、甲南大学、甲南女子大学、神戸大学、神戸海星女子学院大学、神戸国際大学、神戸市看護大学、神戸松蔭大学、神戸女学院大学、神戸女子大学、神戸女子短期大学、神戸親和大学、園田学園大学、姫路大学、兵庫大学、兵庫大学短期大学部、兵庫県立大学、流通科学大学

○中長期計画Ⅱ期の取組課題/達成目標/活動指標/予算等

課題及び期待される効果	取組	達成目標	活動指標	予算（千円）
課題③ 大学の枠を超えた学生間の交流・活動促進 他大学の学生との交流、社会人との交流等の場を提供することによる効果 1. 学生が地域・企業との連携・協働を通じた様々な社会貢献活動に、地元企業や自大学以外の学生と一緒に参加することで地域の魅力、または課題を直に感じ、理解を深め、そして解決策を自発的に考える効果が期待できる。 2. 参加した学生に様々な交流、広報活動を促すことにより、学生自らが他大学の学生と協働し、企画を実現することで主体性・実行力・発信力が向上する。また学生がメディア等を活用した周知に取り組むことで、自主性や文章構成力等を高めることを目的とする。併せてコンソの認知度を高める。 上記2つの取組により、コンソ加盟校の学生において本事業での経験が大学4年間の生活の充実に資する効果が期待できる。	1. テーマ型の学生交流プロジェクトの実施			
	1. テーマ型の学生交流プロジェクト「WILL BEプロジェクト」キッズフェスティバル	各年参加者数 50名以上	参加加盟校数 10校/年	1,050
	2. 加盟校・学生の地域活性化に関わる取組広報の実施			
	2-1. 学生発信ブランディング「加盟校・学生の地域活性化に関わる取組広報」	情報公開数 200取組以上	各加盟校からの情報提供：年1回以上 情報公開数：40取組以上/年	200
	2-2. 学生発信ブランディング若者による「震災の教訓を繋ぐプロジェクト」SNS等での情報発信	参加加盟校数 10校以上/年	個人参加 15名以上	5,769 (受託事業収入)

【2025年度 学生交流委員会 (③取組1)】テーマ型の学生交流プロジェクト「WILL BEプロジェクト」キッズフェスティバル

事業計画 (4月記載)			自己評価 (12月記載)			事業報告 (3月記載)				
<p>&lt;「シン キッズフェス[仮称]」の開催&gt;</p> <p>開催日：9月、又は10月のINAC神戸ホームゲーム開催日。                      時間：未定（キックオフの2～3時間前から試合終了または終了1時間後まで）                      場所：ノエピアスタジアム神戸（多目的芝生広場含む）                      対象：未就学児童等とその家族、試合観戦者</p> <p>&lt;目的&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域社会との交流：学生が地域の子供や家族と交流する機会を提供し、地域社会との結びつきを強化する。</li> <li>・健康促進：スポーツや文化活動を通じて子供たちの健康と体力を向上させる。</li> <li>・コミュニティの一体感を醸成：試合とフェスを通じて、地域社会全体が一体となって楽しむ場を提供（体験）する。</li> <li>・実践的な経験：キッズフェスティバルの企画・運営を通じて、実際の試合運営に関するスキルを身につけ、学生が将来のキャリアに役立つ経験をしリーダーシップ力を養う。</li> </ul> <p>&lt;内容&gt;</p> <p>当プログラムでは、INAC神戸レオネッサのホームゲーム自体を「キッズフェスティバル」のプログラムの1つとして位置付け、学生達が企画・運営に主体的に関わる取組とする。コンソは加盟校からイベントブースに出展する学生団体等とプログラム全体を企画運営する学生を広く募集する。プログラム全体の企画運営学生に関しては、「キッズフェスティバルを成功させるためにはどうしたら良いか?」といった観点から、複数の班に分かれて活動を実施する。これらの活動の取り纏めは、INAC神戸のスタッフに依頼する。</p> <p>[活動班例(案)]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・イベント全体の調整班</li> <li>・企画班</li> <li>・INAC神戸レオネッサのホームゲーム運営サポート班</li> <li>・広報・SNS班</li> <li>・その他</li> </ul> <p>&lt;その他&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施コストに関して</li> </ul> <p>INAC神戸レオネッサは、当プログラムにおいて、施設使用料等を原則徴収しない。コンソ事業予算内で実施する。</p>			<p>■「シン キッズフェスティバル」の開催</p> <p>&lt;活動内容&gt;</p> <p>INAC神戸レオネッサと共催事業として実施。スポーツプロモーターを目指す学生が、イベント企画・運営・広報全般やスポーツビジネス体験の後、「シン キッズフェスティバル」を実施した。</p> <p>開催日：2025年10月13日（月・祝）INAC神戸ホームゲーム開催日                      時間：12:00～15:00                      場所：ノエピアスタジアム神戸（多目的芝生広場・ときわんノエスタ）                      対象：未就学児童等とその家族、試合観戦者</p> <p>活動分類：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・a:スポーツプロモーター（企画運営班）活動 参加学生数：9校15名</li> <li>・b:キッズサポーター（ブース出展班）活動 出展ブース数：13校15ブース（参加学生65名）</li> </ul> <p>1. イベント企画・運営会議、広報、スポーツビジネス体験 (a)                      活動日：7月18日、7月19日、8月7日、8月23日、8月27日、9月6日、9月16日、9月21日、9月25日、9月30日、10月6日、10月7日                      参加者：のべ75名（内訳：参加学生数56、職員数12、企業7）</p> <p>2. シンキッズフェスティバル開催日(10月13日(月))                      参加者総数：500名 (①スタッフ(参加学生、教職員、企業、一般)+②来場者)                      参加者内訳：                      ①スタッフ合計83名                      （スタッフ内訳）参加学生・教職員・企業・一般                      ・参加学生：14校65名（内訳-関西学院大学9、大手前大学2、大手前短期大学1、関西国際大学7、神戸大学1、神戸国際大学1、兵庫県立大学3、神戸常盤大学1、神戸学院大学12、神戸市外国語大学5、流通科学大学4、甲南女子大学4、兵庫大学13、加盟校外大学1校2）                      ・教職員：7名（内訳-神戸学院大学2、流通科学大学1、甲南女子大学1、神戸市外国語大学1、兵庫大学1、神戸常盤大学1）                      ・企業：9名 ・一般：2名</p> <p>②来場者合計417名（内訳-大人220名・子供197名）</p> <p>&lt;自己評価&gt;</p> <p>スポーツプロモーターは、7月中旬から活動を開始し、月数回のミーティングや試合会場への同行を通じてINAC神戸レオネッサの運営に参加した。この活動を通じて、スポーツビジネスやイベント企画について学ぶとともに、他大学の学生との交流を深めることができた。キッズサポーターは、ゼミやサークル単位でブースを企画・準備し、当日の運営を担当する中で、来場者を楽しんでもらえる内容を工夫し実践する力を養った。フェスティバル当日は受付や試合設営、ブース運営など多様な役割を担い、イベント全体の円滑な進行と参加者満足度の向上に貢献した。また、企業課題解決プログラムと連携したブース運営を通じて、学んだ知識を実践に活かす経験も得ることができた。今回の活動を通じて、主体的に企画立案や運営に取り組む力を高め、チームでの協働や課題解決能力の向上に寄与したと評価している。今後は学生募集の時期や準備期間の調整を行い、より主体的な企画・運営が可能な体制を整えつつ、学生のスポーツビジネス体験と企業課題解決への有効な取組み、地域活性化につながるイベントを継続的に実施する予定である。</p>			<p>■「シン キッズフェスティバル」の開催</p> <p>&lt;活動内容&gt;</p> <p>INAC神戸レオネッサと共催事業として実施。スポーツプロモーターを目指す学生が、イベント企画・運営・広報全般やスポーツビジネス体験の後、「シン キッズフェスティバル」を実施した。</p> <p>開催日：2025年10月13日（月・祝）INAC神戸ホームゲーム開催日                      時間：12:00～15:00                      場所：ノエピアスタジアム神戸（多目的芝生広場・ときわんノエスタ）                      対象：未就学児童等とその家族、試合観戦者</p> <p>活動分類：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・a:スポーツプロモーター（企画運営班）活動 参加学生数：9校15名</li> <li>・b:キッズサポーター（ブース出展班）活動 出展ブース数：13校15ブース（参加学生65名）</li> </ul> <p>1. イベント企画・運営会議、広報、スポーツビジネス体験 (a)                      活動日：7月18日、7月19日、8月7日、8月23日、8月27日、9月6日、9月16日、9月21日、9月25日、9月30日、10月6日、10月7日                      参加者：のべ75名（内訳：参加学生数56、職員数12、企業7）</p> <p>2. シンキッズフェスティバル開催日(10月13日(月))                      参加者総数：500名 (①スタッフ(参加学生、教職員、企業、一般)+②来場者)                      参加者内訳：                      ①スタッフ合計83名                      （スタッフ内訳）参加学生、教職員、企業・一般                      ・参加学生：14校65名（内訳-関西学院大学9、大手前大学2、大手前短期大学1、関西国際大学7、神戸大学1、神戸国際大学1、兵庫県立大学3、神戸常盤大学1、神戸学院大学12、神戸市外国語大学5、流通科学大学4、甲南女子大学4、兵庫大学13、加盟校外大学1校2）                      ・教職員：7名（内訳-神戸学院大学2、流通科学大学1、甲南女子大学1、神戸市外国語大学1、兵庫大学1、神戸常盤大学1）                      ・企業：9名 ・一般：2名</p> <p>②来場者合計417名（内訳-大人220名・子供197名）</p> <p>&lt;報告&gt;</p> <p>スポーツプロモーターは7月中旬からINAC神戸レオネッサの運営に参加し、ミーティングや試合会場での活動を通じてスポーツビジネスを学び、他大学との交流も深めた。キッズサポーターは企画準備から当日のブース運営まで担い、来場者を楽しんでもらう工夫や実践力を培った。これらの経験は、学生の主体的な企画力や協働力、課題解決力の向上につながったと評価している。今後は、学生募集の時期や準備期間を見直し、5月のINACホームゲーム観戦を通じて課題や現場の雰囲気や早期に把握できる仕組みを整える。さらに、学生がより主体的に企画・運営に関われる体制を構築し、スポーツビジネスの実践的学びと企業課題解決の双方を深めるプログラムへ発展させたい。地域と学生、企業がつながり、スポーツを軸にした地域活性化を継続的に生み出す取り組みとして、より質の高い教育的価値を提供していく。</p>				
達成目標に対する実績 【達成目標】各年参加者数50名以上			575名/年			575名/年				
活動指標に対する実績 【活動指標】参加加盟校数10校/年			13校/年			13校/年				
自己評価基準：対到達目標※			4			—				
自己評価基準：対継続性※			4			—				
事業収支	収入	1,050,000円	支出	496,342円	収支	553,658円	支出	820,241円	収支	229,759円

理事会からの改善提案（次年度事業計画に反映）

INAC神戸レオネッサとの連携により、従来の開催方式を刷新したキッズフェスティバルにおいて、学生が主体的に企画・運営に取り組み、多様なブース展開を実現できた点は高く評価できる。ゼロベースから新たなキッズフェスティバルを築き上げる過程で、企業課題解決プログラムをはじめ、コンソーシアムの多様な取り組みとの連携・協働につながるプログラムを見い出せたことは大変意義深い。来年度からは、企業課題解決プログラム等、委員会の枠を超えて加盟校に広く柔軟なブース出展を呼びかけることで、多様な学生の参加を促し、大学間交流のさらなる深化を図ることを期待する。

※自己評価基準：対到達目標	4：当初計画を上回って達成 2：当初計画をやや下回った	3：当初計画を達成 1：当初計画を下回った	※自己評価基準：対継続性	4：本プログラムは継続すべき 2：本プログラムの継続には改善が必要	3：本プログラムは継続しても良い 1：本プログラムは中止すべき
---------------	--------------------------------	--------------------------	--------------	--------------------------------------	------------------------------------

【2025年度 学生交流委員会 (③取組2-1)】学生発信ブランディング「加盟校・学生の地域活性化に関わる取組広報」

事業計画 (4月記載)			自己評価 (12月記載)			事業報告 (3月記載)				
<p>【地域の活性化に関わる加盟校学生の取組事例の紹介】</p> <p>大学コンソーシアムひょうご神戸のホームページに、加盟校の学生が地域の活性化に関わる取組事例を公開する。また必要に応じて、様々なメディア等への告知を検討・計画する。</p> <p>〈内容〉 加盟校からの情報提供をもとに、地域で若者が活躍する姿を周知することにより、加盟校による地域の活性化のための貢献活動に取り組む。</p>			<p>■地域の活性化に関わる加盟校学生の取組事例の紹介</p> <p>大学コンソーシアムひょうご神戸のホームページやパネル展示で、加盟校の学生が地域の活性化に関わる取組事例を公開した。</p> <p>〈活動内容〉 ①「全国コンソーシアム研究交流フォーラムパネル展示」 ・8月30日(土)12:00~19:30(コアタイム15:10~16:30) ・テーマ「兵庫から発信する大学間連携や産官学連携」 ・【A,B】大学間・産官学連携(ブース展示11校、ポスター展示1校) ・【C】「震災30年」阪神・淡路大震災の教訓をつなぐ、大学の活動について(ブース展示9校1団体、ポスター展示1校) ・全展示数:22取組(1団体の展示を除く) ・全参加者数:14校、学生21名、教職員34名</p> <p>②地域の活性化に関わる加盟校学生の取組事例の紹介 加盟校からの情報提供をもとに、大学コンソーシアムひょうご神戸HP上から、リンクされた「note」に「地域で輝く学生」と題した読み物記事の連載を行った。通年で、地域で学生が活躍する姿を広く周知した。 【掲載実績】2校11取組</p> <p>〈自己評価〉 「全国コンソーシアム研究交流フォーラム」では、大学間、産官学連携や震災30年に纏わる加盟校の取組事例を広く発信。一同に展示することで、各加盟校の強みや特徴が明確化し、多様な活動を加盟校、加盟校外、企業、行政の方々へより合理的に共有する機会をつくることができた。その他「note」の連載も含め、情報公開数の目標達成に向けた取組は着実に進捗しており、今後も多様な方法で継続的な発信を通じて、加盟校の地域との連携を促進する。</p>			<p>■地域の活性化に関わる加盟校学生の取組事例の紹介</p> <p>大学コンソーシアムひょうご神戸のホームページやパネル展示で、加盟校の学生が地域の活性化に関わる取組事例を公開した。</p> <p>〈活動内容〉 ①「全国コンソーシアム研究交流フォーラムパネル展示」 ・8月30日(土)12:00~19:30(コアタイム15:10~16:30) ・テーマ「兵庫から発信する大学間連携や産官学連携」 ・【A,B】大学間・産官学連携(ブース展示11校、ポスター展示1校) ・【C】「震災30年」阪神・淡路大震災の教訓をつなぐ、大学の活動について(ブース展示9校1団体、ポスター展示1校) ・全展示数:22取組(1団体の展示を除く) ・全参加者数:14校、学生21名、教職員34名</p> <p>②地域の活性化に関わる加盟校学生の取組事例の紹介 加盟校からの情報提供をもとに、大学コンソーシアムひょうご神戸HP上から、リンクされた「note」に「地域で輝く学生」と題した読み物記事の連載を行った。通年で、地域で学生が活躍する姿を広く周知した。 【掲載実績】26取組(10校25取組、コンソ事業1取組)</p> <p>〈報告〉 「全国コンソーシアム研究交流フォーラム」では、大学間、産官学連携や震災30年に纏わる加盟校の取組事例を広く発信。一同に展示することで、各加盟校の強みや特徴が明確化し、多様な活動を加盟校、加盟校外、企業、行政の方々へより合理的に共有する機会をつくることができた。その他「note」の連載も含め、今後はInstagramからの誘導など多様な方法での継続的な発信を通じて、加盟校の地域との連携を促進する。</p>				
<p>達成目標に対する実績 【達成目標】情報公開数200取組以上/5年</p>			198取組/4年(10月31日現在)			213取組/4年				
<p>活動指標に対する実績 【活動指標】各加盟校からの情報提供:年1回以上 情報公開数:40取組以上/年</p>			33取組(10月31日現在)			48取組				
自己評価基準:対到達目標※			3			—				
自己評価基準:対継続性※			3			—				
事業収支	収入	200,000円	支出	45,928円	収支	154,072円	支出	196,692円	収支	3,308円

理事会からの改善提案(次年度事業計画に反映)

全国コンソーシアム研究交流フォーラムにおけるパネル・ポスター展示では、加盟校の取組を広く全国で紹介できたことに加え、来場者との直接的な情報交換を実現し、単なる情報発信に留まらない双方向での広報展開を行った点で高く評価できる。一方で、情報発信の主体となる加盟校に偏りが見られることは、今後の課題である。今後は、より多くの加盟校の参加を促すために、情報提供のメリットを明確にし、多様な大学が積極的に情報発信できるよう、コンソHPやNOTE等仕組み化の検討を期待する。

※自己評価基準:対到達目標	4:当初計画を上回って達成 3:当初計画を達成 2:当初計画をやや下回った 1:当初計画を下回った	※自己評価基準:対継続性	4:本プログラムは継続すべき 3:本プログラムは継続しても良い 2:本プログラムの継続には改善が必要 1:本プログラムは中止すべき
---------------	------------------------------------------------------	--------------	----------------------------------------------------------------------

【2025年度 学生交流委員会 (③取組2-2)】学生発信ブランディング 若者による「震災の教訓を繋ぐプロジェクト」SNS等での情報発信

事業計画 (4月記載)			自己評価 (12月記載)			事業報告 (3月記載)				
<p>【兵庫県危機管理部防災支援課受託事業 若者による「震災の教訓を繋ぐプロジェクト」】</p> <p>【受託期間】2025年4月1日～2025年10月31日 (2024年度からの継続)</p> <p>【目的】 阪神・淡路大震災から30年の節目を迎えるにあたり、震災の風化を防ぎ、次世代に震災の経験と教訓を繋いでいくことを目的としている。若者が参画するプロジェクトチームの活動を通じて、記事コンテンツの作成および啓発動画を活用した広報を行う。</p> <p>【内容】 震災を知らない若者が、震災から学び、教訓として次世代に何を伝えていくかをテーマに、調査や取材による動画作成とSNS等での発信を通して、若者の視点で防災・減災啓発における情報を、地域社会に伝えていく。コンソは加盟校から参画学生を広く募集し、チームの立ち上げ、活動を支援する。学生の教育的観点においては、震災について主体的かつ深く学ぶことを通じて、創作意欲や協調性の養成を目指す。また、地域の防災意識の向上や地域活性化に繋がる取り組みを通じて、広報 (ブランディング) 活動の一環としての経験も提供する。</p> <p>(1) 震災の教訓を繋ぐプロジェクトチームの運営 (2) ワークショップの企画・運営 参加学生の意識を合わせるとともに、広報活動の企画・検討するためのワークショップ開催 (3) ウェブサイト、SNS等での情報発信 参加学生が作成する記事コンテンツを発注者が運営・管理するウェブサイトおよびSNSで発信 (4) 防災・減災啓発動画の効果的な発信 学生たちが制作した、防災・減災啓発動画を広く国内外へ発信するための機会を設け、効果的な広報発信</p> <p>【具体的な活動内容】 ○防災啓発動画の発信 (防災動画チーム) (1)兵庫県 ひょうごチャンネル (YouTube) にて発信 ・震災30年特設ホームページ ・創造的復興サミット会場 (2025年9月開催予定) ・大阪・関西万博会場 (2)大学コンソーシアムひょうご神戸ホームページにて発信 学生交流事業 【地域で輝く学生vol.1. 防災動画】 (3)第22回全国大学コンソーシアム研究交流フォーラムにて発信 (2025年8月30日・31日) ・パネル展示: 「兵庫から発信する大学間連携や産官学連携」をコンセプトに加盟校より「震災30年、阪神・淡路大震災の教訓をつなぐ大学・学生の活動」や「大学間連携」「産官学連携」を展示。その一環として、本取組も紹介 ・分科会: 【TKK3大学連携事業15周年企画】阪神・淡路大震災から30年「若者と考える 被災地支援と語り継ぎのチカラ」にて上映  ○防災・減災啓発のコンテンツ企画制作、SNS等での発信 (SNSチーム) ・キックオフ2025年2月27日、2025年2月～10月に月1回の編集会議 ・随時SNS発信と2025年10月にタブロイド発行予定</p>			<p>■若者による「震災の教訓を繋ぐプロジェクト」 リメンバー117: WEBメディアの取材・編集 【参加学生数】7校23名 ・タブロイド紙 4校12名 関西学院大学(3)神戸松蔭大学(1)神戸親和大学(1)兵庫県立大学(7) ・動画広報活動 6校11名 関西学院大学(4)甲南大学(2) 神戸学院大学(1)神戸松蔭大学(1) 神戸親和大学(1)兵庫県立大学(1)</p> <p>&lt;活動内容&gt; 1. 防災・減災啓発のコンテンツ企画制作、SNS等での発信 (SNSチーム) ① 第1～第3回 編集会議 【開催日】2025年2月27日、3/10、3/24 【会場】兵庫県庁2号館 【参加者】兵庫県総務部広報広聴課5名、防災支援課2名、学生 方針説明の後、個人の興味・関心事(テーマ候補)紹介から活動開始 ② 第4回～第11回 編集会議 【開催日】8回 (4/7、4/21、5/12、5/26、6/16、7/7、7/29、10/23(最終)) 【会場】兵庫県庁2号館 【参加者数】のべ104名 (学生39、行政52、企業13) メンバー毎に関心事テーマから記事原稿を作成、広報広聴課専門員らの指導のもと編集。 外部関係者との取材を経て記事を作成し震災特設ページに随時発信、纏めたタブロイド版を作成し関係者や一般に広く配布した。 2. 防災啓発動画の広報活動 (防災動画チーム) 【活動期間】2025年4月～2025年10月末 当コンソおよび制作した代表学生が広く国内外に下記の効果的な発信を行った。</p> <p>【具体的な活動実績】 1. 防災啓発動画の発信 広報活動 (防災動画チーム) ①ひょうごチャンネル(YouTube)にて防災動画を6月に発信 視聴回数210回以上 9/20創造的復興サミット会場にて動画上映 9/15～19大阪・関西万博会場 関西パビリオン兵庫県ゾーンで上映 ②ホームページ学生交流事業 コンソメチャネルにて6月に発信 視聴回数310回以上 ③8/30、31全国大学コンソーシアム研究フォーラム 震災30年テーマにおいては8大学と当コンソからの出展があり、当コンソでは本プロジェクトの取組みを主題とし、これまでの学生ボランティア活動の15年間の歩みと共に紹介した。防災動画は、防災パネル展示や第3分科会会場で上映し、制作した学生自らその意義や思いを参加者に伝えた。  2. 防災・減災啓発のコンテンツ企画制作、SNS等での発信 (SNSチーム) ・震災30年特設ページにて記事を掲載 (7テーマ) ・タブロイド制作と発行 9月大阪関西万博会場にて配布 (約250部)</p> <p>&lt;自己評価&gt; 震災30年WEBメディアの防災記事は、個人の興味・関心事から出発するアプローチにより、若人の実体験や思いから紡ぎ出された。阪神・淡路大震災の被災者、自治体職員や農家への取材へつながり、学生目線の身近で興味深い記事が作成され、学生にとっても貴重な社会との交流や教育機会ともなった。また、昨年度制作の防災動画についても大阪・関西万博関連イベントや全国大学コンソの機会にも恵まれ、効果的に広報活動が行えた。学生には防災や災害時の行動、ボランティア活動への意欲も醸成され、今度とも次世代への継承も踏まえて、防災啓発活動は(他プログラムなどで)継続していく方向が望ましい。 参加加盟校数は昨年チームとの重複もあり目標未達だったが、活動指標の個人参加数は年間で達成した(2024年10月から2025年10月末まで)。</p>			<p>■若者による「震災の教訓を繋ぐプロジェクト」 リメンバー117: WEBメディアの取材・編集 【参加学生数】7校23名 ・タブロイド紙 4校12名 関西学院大学(3)神戸松蔭大学(1)神戸親和大学(1)兵庫県立大学(7) ・動画広報活動 6校11名 関西学院大学(4)甲南大学(2) 神戸学院大学(1)神戸松蔭大学(2) 神戸親和大学(1)兵庫県立大学(1)</p> <p>&lt;活動内容&gt; 1. 防災・減災啓発のコンテンツ企画制作、SNS等での発信 (SNSチーム) ① 第1～第3回 編集会議 【開催日】2025年2月27日、3/10、3/24 【会場】兵庫県庁2号館 【参加者】兵庫県総務部広報広聴課5名、防災支援課2名、学生 方針説明の後、個人の興味・関心事(テーマ候補)紹介から活動開始 ② 第4回～第11回 編集会議 【開催日】8回 (4/7、4/21、5/12、5/26、6/16、7/7、7/29、10/23(最終)) 【会場】兵庫県庁2号館 【参加者数】のべ104名 (学生39、行政52、企業13) メンバー毎に関心事テーマから記事原稿を作成、広報広聴課専門員らの指導のもと編集。 外部関係者との取材を経て記事を作成し震災特設ページに随時発信、纏めたタブロイド版を作成し関係者や一般に広く配布した。 2. 防災啓発動画の広報活動 (防災動画チーム) 【活動期間】2025年4月～2025年10月末 当コンソおよび制作した代表学生が広く国内外に下記の効果的な発信を行った。</p> <p>【具体的な活動実績】 1. 防災啓発動画の発信 広報活動 (防災動画チーム) ①ひょうごチャンネル(YouTube)にて防災動画を6月に発信 視聴回数270回以上 9/20創造的復興サミット会場にて動画上映 9/15～19大阪・関西万博会場 関西パビリオン兵庫県ゾーンで上映 ②ホームページ学生交流事業 コンソメチャネルにて6月に発信 視聴回数410回以上 ③8/30、31全国大学コンソーシアム研究フォーラム 震災30年テーマにおいては8大学と当コンソからの出展があり、当コンソでは本プロジェクトの取組みを主題とし、これまでの学生ボランティア活動の15年間の歩みと共に紹介した。防災動画は、防災パネル展示や第3分科会会場で上映し、制作した学生自らその意義や思いを参加者に伝えた。  2. 防災・減災啓発のコンテンツ企画制作、SNS等での発信 (SNSチーム) ・震災30年特設ページにて記事を掲載 (7テーマ) ・タブロイド制作と発行 9月大阪関西万博会場にて配布 (約250部)</p> <p>&lt;報告&gt; 震災30年WEBメディアの防災記事は、学生の興味を起点に実体験や思いをもとに制作され、被災者や自治体職員、農家への取材にも発展した。学生目線の身近な記事となり、社会との交流や学びの機会にもつながった。昨年度の防災動画も万博関連イベントや全国大学コンソで活用され、効果的な広報が実現した。学生には防災 (備えや災害時の行動)、ボランティア活動への意欲も醸成され、今後とも経験や知識を次世代に継承していくことが期待される。昨年6月からは、神戸学院大学と災害時の外国人コミュニケーションツール「BOSAIコミュニケーションカード」の開発およびフェーズフリーな活用をめざすプロジェクトを行うなど、災害に強い共生社会に向けた活動にもつながった。参加加盟校数は昨年チームとの重複もあり目標未達だったが、活動指標の個人参加数は年間で達成した。(2024年10月から2025年10月末まで)</p>				
達成目標に対する実績 【達成目標】参加加盟校数10校以上/年			参加加盟校数: 7校/年			参加加盟校数: 7校/年				
活動指標に対する実績 【活動指標】個人参加15名以上			個人参加: 23名/年			個人参加: 23名/年				
自己評価基準: 対到達目標※			2			—				
自己評価基準: 対継続性※			3			—				
事業収支	収入	5,889,100円	支出	5,889,100円	収支	0円	支出	5,889,100円	収支	0円

理事会からの改善提案 (次年度事業計画に反映)

学生の関心や実体験を起点にWebメディア記事を制作し、阪神・淡路大震災の被災者や自治体職員等への取材を通じて社会との交流や教育機会を創出したことや、制作した防災動画が大阪・関西万博関連イベントや全国大学コンソーシアムで活用され、広報効果を高めことは評価できる。今年度で終了する当プログラムで認識できた、学生の防災意識・備えや災害時の行動理解、ボランティア活動への意欲を、今後はコンソの国際交流委員会で取り組み中の「BOSAIコミュニケーションカード」作成の活動に活かす等、継続的な活動が望まれる。

※自己評価基準: 対到達目標	4: 当初計画を上回って達成 3: 当初計画を達成 2: 当初計画をやや下回った 1: 当初計画を下回った	※自己評価基準: 対継続性	4: 本プログラムは継続すべき 3: 本プログラムは継続しても良い 2: 本プログラムの継続には改善が必要 1: 本プログラムは中止すべき
----------------	----------------------------------------------------------	---------------	--------------------------------------------------------------------------

【2025年度 学生交流委員会 事業決算】

(単位：円)

	予算	決算	各プログラム 予算・決算									委員会 予算・決算			
			取組1			取組2-1			取組2-2						
			WILL BE プロジェクト 「テーマ型の学生交流プロジェクト」			学生発信ブランディング 「加盟校・学生の地域活性化に関わる取組広報」			学生発信ブランディング 若者による「震災の教訓を繋ぐプロジェクト」 SNS等での情報発信			内訳	予算額	決算額	
			内訳	予算額	決算額	内訳	予算額	決算額	内訳	予算額	決算額				
収入	会費収入	1,350,000	1,350,000		1,050,000	1,050,000		200,000	200,000					100,000	100,000
	助成事業収入	0	0												
	受託事業収入	5,769,100	5,769,100								兵庫県受託事業	5,769,100	5,769,100		
	プログラム収入	0	0												
	雑収入	0	120,000								全国コンソ協議会 支援金(※1)		120,000		
	戻入金	0	0												
	計	7,119,100	7,239,100		1,050,000	1,050,000		200,000	200,000			5,769,100	5,889,100		100,000
支出	会議費	40,000	6,110	交流会	30,000	6,110								会議費	10,000
	旅費交通費	1,260,000	490,782	旅費交通費	50,000	15,340	旅費交通費	20,000	6,290	日常活動 全国コンソ登壇者交通費	1,180,000	446,652	旅費交通費	10,000	22,500
	通信運搬費	366,600	427,054	通信費・郵送費等	20,000	31,819	通信費・郵送費等	120,000	130,402	通信費等 HP製作費	196,600	249,395	通信費・郵送費等	30,000	15,438
	消耗品費	311,500	444,416	消耗品	30,000	58,192				消耗品	272,500	381,126	消耗品	9,000	5,098
	新聞図書費	0	0												
	印刷製本費	300,000	514,099	チラシ製作費等	50,000	96,743				全国コンソ(予稿集・報告集)作成	250,000	417,356			
	光熱水料費	0	0												
	賃借料	690,000	299,616	会場費等	250,000	60,639				会場費 全国コンソパネル展示費	430,000	238,977	会場費等	10,000	
	保険料	0	7,050	イベント保険		7,050									
	謝金	200,000	55,200							全国コンソ講師謝金 (※1)	200,000	55,200			
	租税公課	0	10,000							収入印紙		10,000			
	支払手数料	21,000	17,045	振込手数料等	20,000	2,310				振込手数料等		14,515	振込手数料	1,000	220
	諸会費	50,000	0							全国コンソ等参加・広報・ 情報交換会学生参加費	50,000				
	委託費	270,000	287,100	Instagram・KissFM宣伝		115,500	HP更新費等	60,000	60,000	HP更新等	180,000	83,600	各プログラムHP等に 係る予備費	30,000	28,000
	人件費	3,010,000	3,992,279							職員賃金・通勤旅費他	3,010,000	3,992,279			
	接待交際費	0	0												
	支払支援金	600,000	426,538	学生企画経費等	600,000	426,538									
雑費	0	0													
計	7,119,100	6,977,289		1,050,000	820,241		200,000	196,692	(※2)		5,769,100	5,889,100		100,000	71,256

収入－支出	141,811
-------	---------

(※1,2)全国大学コンソーシアム研究交流フォーラムへの  
出展に伴い、全国コンソーシアム協議会からの支援金を受領  
したため